

[0022]九州大学生体防御医学研究所年報 : 2007年

<https://doi.org/10.15017/10326>

出版情報 : 九州大学生体防御医学研究所年報. 22, 2008-05. 九州大学生体防御医学研究所
バージョン :
権利関係 :



平成19年度（2007/2008年）の研究活動の概況

生体防御医学研究所・所長

吉開泰信

（よしかいやすのぶ）

生体防御医学研究所では、生体の恒常性を維持している「生体防御」研究というユニークな研究課題のもとに生命現象の本質に迫る基礎研究を展開すると共に、生体防御機構の破綻による難治性疾患の発生機序の解明と診断、治療法の確立を目指した研究を展開し国際的にも高い評価を受けて参りました。平成19年度の主な活動状況は以下の通りです。

1. 21世紀COE「統合生命科学」に引き続きグローバルCOE「個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻」（平成19年度～平成23年度）が採択された。
2. 特別教育研究経費研究推進感染症研究施設大学連携事業（新興・再興感染症研究ネットワーク）（平成17年度～平成21年度）で引き続き、研究推進、インフラ整備をおこなった。
3. 施設整備費補助金として高輝度放射光利用実験装置（シンクロトン光設備）の整備に工学・総理工との3部局で要求して認められた。
4. ポストゲノムの先端的研究を積極的に推進して *Nature Immunology* などのトップジャーナルに研究成果を発表した。
5. Research Assistant 制度を確立して、大学院生を経済的に支援することによって、システム生命科学府、医学系学府における大学院教育を充実させた。
6. 若手研究者自立的な研究環境整備促進事業では SSP（特任准教授）の採用を完了し、「生体防御におけるポストゲノムサイエンス」研究を推進した。
7. 若手研究者の発表の場として平成20年1月31日、別府亀の井ホテルで第10回リトリートを開催して、ベスト口演賞、ベストポスター賞の選出をおこなった。
8. 生医研ホットスプリングハーバー国際シンポジウムを平成20年2月1・2日に第3回研究所ネットワーク国際シンポジウム・グローバルCOE国際シンポジウムとのジョイントの形で *Cell-fate Decision: Function and Dysfunction in Host Defense –Tumor, Infection and Immunity* のテーマで開催した。
9. 先端的研究方法、最新知識を体得するために、国内外から第一線の研究者を招聘して生医研・グローバルCOE理医連携セミナー（第481回～第507回）を実施した。

省令で守られていた大学附置研は、法人化後その存在意義が大きく問われています。現在、国（科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会）で平成22年度からの次期中期目標では附置研は学術政策上国として特に整備を推進する研究組織「共同利用・共同研究拠点」以外は記載事項としないことが検討されています。質の高い基礎研究の成果の情報を発信し続けることはもちろんのこと、社会貢献・国際貢献に関する活動を社会に対して目に見える形で示すことで、研究者コミュニティでの存在感を高めることが、ますます重要となってきます。これらの課題に適切に対応するために今後とも所員一同、より一層の努力を行う所存であります。何卒、生医研の今後の発展のために厳しい御批判、御鞭撻とともに御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成20年4月1日